

水田での作業の効率化のために、 畦畔の除草はバスタにおまかせください!!

今年も、田植えの時期になりました。多種多様な作業をするため、何度も水田の畦畔を歩かなくてはなりません。みなさんの水田の畦畔は土崩れを起こしていませんか？

「雑草が邪魔だけど、除草剤を散布すると畔崩れが起るから困る」「畔崩れしないように、刈払機を使っている」という水稻農家さんの声を耳にします。畦畔の雑草防除にお困りであれば、是非バスタをお使いください。



畦畔強度を維持します

バスタは散布しても、雑草の根までは枯らさないので、手刈り除草と同じくらい畦畔強度

を維持することができます。また作業時間の短縮にもつながり、作業回数も減らすことができ、非常に効率的です。

バスタを上手に散布しましょう

散布の際は、薬液が稲に飛散しないように、注意してください。気象条件、噴霧器やノズルの調整など、バスタの散布ポイント（左図）をご参照ください。

最も効果が高い散布時期は、雑草の草丈が15〜20cmになる頃が目安です。

バスタの散布ポイント

- 噴霧器の圧力を低くする
- ノズルを上向きにしない
- 風の強い時、弱い時に散布する
- 飛散防止カバーをし、できるだけ飛散の少ないノズルを使用する



また、斑点米カメムシの発生を抑えるために、水田畦畔の雑草防除は大切です。イネの出穂3〜4週間までにバスタを散布して畦畔の除草を行ってください。ただし、出穂間近の水田畦畔の除草剤散布は、斑点米カメムシ類が水田内に飛び込む原因になるので、避けてください。土壌に落下した成分は速やかに土壌に吸着され、微生物により分解されます。

ラベルをよく読んで、使用時期・使用量を守ってご使用ください。

■ バスタの登録内容 (2013年5月現在)

作物名 []は適用場所	適用雑草名	使用時期*		10アールあたり 使用量(ml)	総使用回数**
水田作物	一年生雑草	雑草生育期	耕起15日前	300~500	1回
水田作物[水田刈跡]		雑草生育期			
水田作物[水田畦畔]	一年生及び 多年生雑草	雑草生育期	草丈30cm以下	7日	2回
水田作物、畑作物[休耕田]			草丈50cm以下		3回

【使い方】希釈水量10アール当り100~150ℓを雑草茎葉散布
 *印は収穫物の残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数を示します。
 **印はグルホシネート及びグルホシネートPを含む農業の総使用回数の制限を示します。

飛散防止カバーが
オススメ



草木が活力を増す春。中でも驚きの成長力を見せる「たけのこ」の雑草防除にもバスタ!

特集

この作物に登録アリ!
たけのこ

春の味覚を代表する食材であるたけのこ。たけのこは中国原産のイネ科植物です。日本に伝

来したのは、1470年頃、京都長岡京に植

えられたと伝えられています。暖かい地方で生育する植物

なので、日本では、九州から東北部まで生育して

います。種類も多く約70種類ほどありますが、食用にされているのは、主にモウソウダケ、ムダケ、ハチクなどで

す。春から初夏が旬です。主要な産地は、福岡、鹿児島、熊本、京都などで、約7割は九州で生産されています。(平成22年 農水省統計特養林産基礎資料より)

筍とは、竹が旬(10日のこと)で竹に生長してしま

うという意味合いがあるようです。たけのこは『朝

掘ったら、その日のうちに食べる。』といわれるくら



たけのこ

い、鮮度が大切です。とくに、地表に出現する直前に掘り出したものは味がよく、収穫したばかりのものは生食もできます。ただし、時間がたつとえぐみの成分であるホモゲンチジン酸が増えるので、あく抜きが必要です。

たけのこの効能

たけのこはヘルシーな低カロリー食品です。タンパク質や食物繊維が多く、またビタミン類などの栄養素を豊富に含みます。

コレステロールの吸収を抑制する働きや、腸内の有

■バスタの登録内容(2013年5月現在)

作物名	適用雑草名	使用時期*	10アールあたり使用量(ml)	総使用回数**
たけのこ	一年生雑草	30日 (雑草生育期 草丈30cm以下)	300~500	2回

【使い方】希釈水量10アール当り100~150ℓを雑草莖葉散布
*印は収穫物の残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数を示します。
**印はグルホシネート及びグルホシネートPを含む農薬の総使用回数の制限を示します。

害物質を体外に排出する働きもあるので、動脈硬化や大腸がんの予防にも役立ちます。

バスタはたけのこにも登録があります。収穫30日前まで、草丈30cm以下の雑草に散布してください。200~300倍の薬液を雑草にたっぷり散布してください。

REPORT



草刈機の作業が困難な傾斜地でバスタの効果試験を実施しました。「傾斜地を崩さない」ことも実証されました。

散布:平成25年4月11日 調査:平成25年4月25日(撮影日)

日本各地のバスタ情報 ~ 関西編 ~



レポーター: バイエルクロップサイエンス 大阪営業所

京都・兵庫・滋賀担当 **佐々木 浩一郎**

斑点米を引き起こすカメムシ類の生息地である水田畦畔や、農耕地における傾斜地での雑草防除には大変な労働力が必要とされます。

特に、傾斜地では草刈機による作業は姿勢が不安定になるため、十分な安全対策が必要不可欠です。さらに、草むらの中には異物が隠れていることがあります。小石などが草刈機の刃にあたり、飛散する場合があります。

そこで、小石・砂利が混在する傾斜地でバスタの効果試験を実施しました。雑草も良く枯れ、草刈機作業よりも省力であること、なによりも「傾斜地を崩さない」ことも実証されました。今後もバスタの利用価値を多くの方に理解してもらうよう取り組みたいと思います。

大切な作物のそばに。



バイエルクロップサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262 www.bayercropscience.co.jp

お客様相談室 ☎0120-575-078 9:00~12:00,13:00~17:00 土日・祝日を除く

詳しくはバスタの情報サイトへ
www.basta.jp/